

令和2年度学校自己評価表（中間評価）					鳥取県立米子南高等学校				
中長期目標 (学校ビジョン)	大胆な挑戦 1 意欲を育てる＝「主体性を育てる」「やる気を引き出す」 2 成長を支える＝「人と出会い、新たなことへの挑戦を促す」 3 変化を求める＝「現状に満足しない」「アンテナを高く張る」				今年度の重点目標	1 基礎学力の向上 2 基本的生活習慣の確立 3 キャリア教育の充実 4 地域社会への貢献 5 的確な情報発信 6 業務改善の取組			

年度当初					中間評価				
評価項目	評価の具体項目	現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	年度末に向けての改善策		
【基礎学力の向上】 ○社会人として必要な基礎学力・一般教養の習得 ○「やる気を引き出す」授業の工夫・改善	○家庭学習を充実させ、基礎学力の定着 ○一般教養を習得させ、社会人として必要な力の修得	○家庭学習時間の平均が1日あたり29分と少ない。 ○ICTを活用した授業、主体的な学びを行わせる授業、家庭学習をさせる取組を行っている授業を年に数回以上実施している科目の割合は、それぞれ69％、90％、62％である。 ○アンケートで生徒の授業理解における肯定的評価は79％であった。また、朝読書・朝勉強テスト等で知識が身につけているとする生徒は79％であった。	○全生徒の1日の平均学習時間が1時間以上である。 ○ICT等を活用し、生徒の興味関心を育み、考える力を培う授業が広く実施されている。 ○生徒の授業理解における肯定的評価が80％以上、また朝読書・朝勉強テストで知識が身につけているとする生徒の割合が80％以上である。	○各種検定、基礎学力テスト、朝勉強テストなど生徒にとっての身近な学習機会を通じて学習意欲を喚起し、家庭学習を充実させる。 ○グーグルクラスルームの活用等、授業改善の研修を引き続き行い、主体的・対話的かつICTを活用した授業を設計できる教員を増やしていく。 ○読書活動が円滑に進むよう「らいぶらりん」、「図書館通信」の内容を充実させて情報提供していく。	○1学期の家庭学習時間調査の結果は、1日あたり、1年41分、2年43分、3年28分だった。 ○ICT研修を2回実施した。各教科ともICTを積極的に活用している。 ○感染症拡大防止の観点から、従来のグループワークや実践的な学習がしにくい状況であるが、各教科工夫して授業を実施している状況である。 ○朝読書の時間に他の活動を実施するなど読書時間が有効に使われていない状況がある。また、新しい試みとして、一部のクラスで「読み聞かせ」を実施した。	B	○朝勉強テストの成績優秀者を掲示するなどして学習意欲を喚起していく。 ○分散授業やオンライン授業の準備を継続していく。 ○朝読書は、わずか10分の短い時間であるので、趣旨を理解して実施していく。「読み聞かせ」については、生徒の反応を見ながら工夫をして継続していきたい。		
【基本的生活習慣の確立】 ○知・徳・体のバランスが取れ、社会人として必要な規範意識を身につけた人物の育成 ○あいさつの励行、ルールとマナーを遵守することの啓発	○知・徳・体のバランスが良い生徒の育成 ○社会生活におけるルール・マナー・モラル等を遵守する習慣や規範意識の修得	○マナーアップ運動や挨拶運動により、元気づく挨拶をする生徒が多くなった。 ○授業前後の分離礼の取組は概ね成果を上げ、習慣化しているが、生徒によっては取組姿勢にばらつきがある。 ○多くの生徒が服装頭髪検査で問題ないが、再検査や再指導の対象となる生徒が若干名いる。 ○SNSを利用している生徒が多く、トラブルが増加した。 ○多くの生徒が落ち着いた学校生活を送っているが、中には人間関係に悩み、不安を抱え、基本的生活習慣が乱れる生徒がいる。	○ルール・マナー・モラル等を遵守する規範意識、特に情報リテラシーの意識が高まっている。 ○生徒が主体的に考えて行動し、より良い人間関係を築き、充実した学校生活を送っている。 ○分離礼の習慣が学校生活全体に広まっている。 ○アンケートで、生徒・保護者の「基本的生活習慣の確立」項目の肯定的評価が90％以上である。	○生徒会執行部を中心とした生徒主体の挨拶運動を展開していく。 ○SNS利用に関する情報提供やトラブル防止の啓発活動を継続して実施する。 ○服装指導、遅刻指導について、家庭との連絡を密にして取り組む。 ○不安を抱えている生徒について迅速に対応し、担任、学年団、SC、SSW及び関係機関と連絡を密に行い生徒を支援していく。 ○分離礼については、できるまで繰り返すなど徹底して指導する。	○学校祭、挨拶運動の各行事の運営にあたり、生徒会執行部を始め多くの生徒の積極的な参加があり、円滑に実施することができた。 ○情報モラルLHRや非行防止教室など啓発活動を実施した。SNS利用に関するトラブルは少なかった。 ○年度半ばになり、新しい環境にも慣れ、多くの生徒は落ち着いた学校生活を送っているが、悩みや不安を抱えている生徒もいる。 ○分離礼について継続して取り組んでいるが、定着しているとまでは言えない。	B	○10月から生徒会執行部が新体制となる。それまでの活動を踏まえながら、自主的かつ積極的に行動できるような環境を整備していく。 ○ハイパーQUの結果を活用して、好ましい人間関係が構築できる生徒を育成していく。 ○服装等の規律違反について、継続して指導していく必要がある。その場で直させるとともに、担任、家庭と連携して指導していく。 ○分離礼については、SHRや授業等で、繰り返し指導して定着させていきたい。		
【キャリア教育の充実】 ○適切な職業観・勤労観を持ち、意欲的に課題発見・課題解決に取り組む人物の育成 ○インターンシップの早期計画と進路LHRの活用 ○地元産業との連携を図り、専門性を深化させ、地域から信頼される人物の育成 ○資格取得の合格率向上のための指導法の工夫	○系統立てた指導により、職業観・勤労観の育成を図り、課題研究等を充実させ、主体的積極的な取組の推進 ○インターンシップ等、体験学習の充実 ○進路実現に向け、地元産業・大学等を理解促進を図り、進路意識の向上 ○資格取得に向けた取組を推進し、より高度な専門資格の取得	○本校が取り組んできた進路指導、キャリア教育を基礎として、キャリアパスポートを作成した。 ○1年生は進路希望別に学校企業見学会、2年生は多くの事業所の協力を得てインターンシップを実施した。その事前・事後の指導を計画的に行い、職業観・勤労観を醸成している。 ○3年生は課題研究によりその専門性を深化させるとともに、希望する進路実現のために面接、小論文の学習に取り組んでいる。 ○各種資格試験に熱心に取り組んでいる生徒は多いが、それに合う十分な成果は得られていない。	○キャリアパスポートが実効性あるものとなるように修正を加え、3年間を見通したキャリア形成の道筋をつけるものにしていく。 ○インターンシップに主体的・積極的に参加し、職業観・勤労観を高め、自らの明確な進路意識につながっている。 ○就職希望者が全員内定を得ている。 ○各種資格試験の合格率が目標に達している。また、進路を意識し積極的に上位級を目指している。	○キャリアパスポートの内容以外にも、生徒が記入するため時間の確保など課題も多いが、教員間の共通認識を大切にして導入に取り組む。 ○新型コロナウイルス感染防止に関連してインターンシップの実施が難しい状況であるが、実施に向けて準備を進めていくことで生徒のキャリア意識を深めていく。 ○3年生の面接指導の実施時期を早め、全職員で指導していくことにより生徒の進路意識や発信力を高めていく。 ○資格試験対策においては、知識の伝達の学習にとどまらず、学習法を指導することで、生徒の主体的学習を促す。また、家庭で復習できる教材を用いて知識・技能の定着を目指す。	○新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、インターンシップは10月に延期したが、受入企業も確保でき、計画通り進行中である。 ○新しい取組として、職員が協力して3年生全員の一斉面接練習を7月に実施し、進路実現への意識を喚起させた。 ○進路研究のための講演会・ガイダンスは中止や延期が多く、計画通りに実施できていない。 ○生徒は、1・2月の検定に向けて日々の学習に取り組んでいる。習熟度別授業、ティームティーチング、ICT活用など学習支援を実施している。	C	○就職試験等の日程が1か月遅れ、10月スタートとなった。就職希望者の全員が内定を得られるよう、職員全員で支援していく。 ○進路講演会等は、代替措置を模索しながら、状況を見て実施していく。 ○課題研究発表会、卒業作品展など学習成果、成長した姿を発表できる場を確保していく。		
【地域社会への貢献】 ○地域を知り、ふるさとを愛し、広く地域社会の発展に寄与する人物の育成 ○社会貢献の推進、校外の教育力の活用	○地域活力の導入や地域活性化の推進 ○学校や地域で主体的に行動でき、地域社会の発展を進める人財の育成	○商業科課題研究では、米子市公会堂と連携した新イベントを開催した。地域とのつながりを伴う活動を通じて、自らのキャリアデザインのきっかけをつかみ、進路選択の参考にできる生徒が出てきている。 ○家庭学科課題研究では、いくつかの生徒企画製品の商品化を果たし、試食会や販売活動等ではマスコミに大きく取り上げられた。多くの方に支援していただき、地域活性化に貢献できたことは、生徒の問題解決力育成と大きな達成感につながった。 ○学校祭をはじめとして、生徒会担当の各行事や独自の取組である挨拶運動等の活動は生徒会長が中心となり執行部員をまとめ協力して行うことができた。まだ工夫や改善は必要であるが成果のある活動を行うことができた。	○地域と連携した取組をさらに充実させていくとともに、課題研究等を通じてそれに関わる生徒、職員を増やす。 ○2月開催予定のみつばち学習発表会を目標として、地域をより理解し、行動できるようコミュニケーション力・プレゼンテーション力を向上させる。 ○生徒会活動では、既存の行事を実施していくことにとどまらず、学校生活をよりよくするための新たな取組を生徒からの発案でできるような体制がきている。	○活きたビジネス教育を実現しているためにも、生徒が地域の方々に出会って地域課題に接する機会を増やし、問題解決力を養っていく。 ○商業科新課程科目「観光ビジネス」の先行研究を行い、可能なものから現行の教育内容に取り入れていく。 ○地域貢献の高い意識を持ち、イベントには多くの生徒、教員が関わるよう配慮する。 ○生徒会が学校生活での要望等を集約し、提案する機会を作る。	○コロナ禍によりイベントが制限され、生徒が地域に出て行く機会が減っていたが、徐々に緩和され、課題研究や商業クラブが地域連携の取組を始めている。商業科地域振興学では、米子市公会堂で医療従事者への感謝を表すブルーライトアップを行い、マスコミに取り上げられた。 ○商業クラブが「角盤町中心市街地にぎわい創出プロジェクト会議」に初参加し、活性化策案に取り組んだ。 ○校内活動ではあるが、家庭クラブが「手作りマスク講習会」を実施し、マスク不足が深刻だった時期に多くの生徒・職員の助けとなった。 ○学校祭は、規模縮小、来校観覧の中止等があったが、例年のように生徒中心であり、生徒個々が自身の役割を把握し、他者とも協力しながら行動することができた。	C	○実習形態の内容の見直しも余儀なくされている面もあるが、常に緊張感をもって指導にあたっていく。 ○コロナ禍で外部との連携が難しくなっているが、安全に配慮しながら、できる活動を実施していく。 ○3年生は、2月実施予定の米南みつばち学習発表会を目標にコミュニケーション力、プレゼンテーション力の向上を目指していく。		
【的確な情報発信】 ○学校の様子や教育内容等の伝達の工夫 ○学校に対しての正確な認識の形成	○メディアを利用した教育内容のわかりやすい伝達 ○特色ある専門高校としての人財育成に取り組む姿の発信	○ホームページに加えてフェイスブックでも情報を頻繁に発信し、イベントだけでなく授業内容についても発信した。 ○専門科教員による中学校訪問など積極的な情報発信する取組を行った。新たに中学校へ出前授業の提案を行ったが、中学校からの申し込みはなかった。	○生徒が成長していく過程がわかるような情報を発信していく。 ○みつばち学習発表会を多くの地域の方や中学校関係者に見ていただき、本校の特徴を理解していただく。	○各メディアでの情報発信を分掌、学科、部活動等で月ごと点検し、積極的に行っていく。 ○みつばち学習発表会のパンフレットを作成し、中学生や地域の方に配布する。	○ホームページ及びフェイスブックの更新頻度が高く、本校の授業・行事の取組を紹介することができている。 ○グーグルクラスルーム利用して、生徒・職員に対して即座に情報を提供できる環境を整備した。	B	○2月実施予定の米南みつばち学習発表会に向けて、実行委員会を立ち上げ、学校全体として動ける準備をしていく。 ○出前授業は、中学校側の要望に応え、実効性のあるものにしていきたい。		
【業務改善の取組】 ○働き方改革の推進 ○時間外業務の削減	○ワークライフバランス確立の推進 ○長時間勤務者の解消	○時間外勤務時間は平成29年度に比べて25％の削減ができているが、個人によっての偏りが見られる。 ○学校組織を見直し、分掌数を9から5に減じて、複数で各業務に関われるようにした。	○各個人の時間外業務が月45時間以内、年360時間以内となっている。 ○「部活動に係る活動方針」に沿った部活動が行われている。	○分掌業務が効率的に遂行されているか注視していく。 ○休日の部活動においては、できるだけ顧問間で分担する。	○分掌業務再編において、大きな支障は出ていないが、聞き取りをしながら注視していく。 ○部活動、行事の制限もあり、職員の時間外業務の総量は減っているが、個人差は大きい。	C	○新設した企画統括部の業務内容を整理しながら、次年度への修正に繋げていく。		

評価基準（5段階） A：十分に達成 B：概ね達成 C：変化のきざし D：まだ不十分 E：目標・方策の見直し